

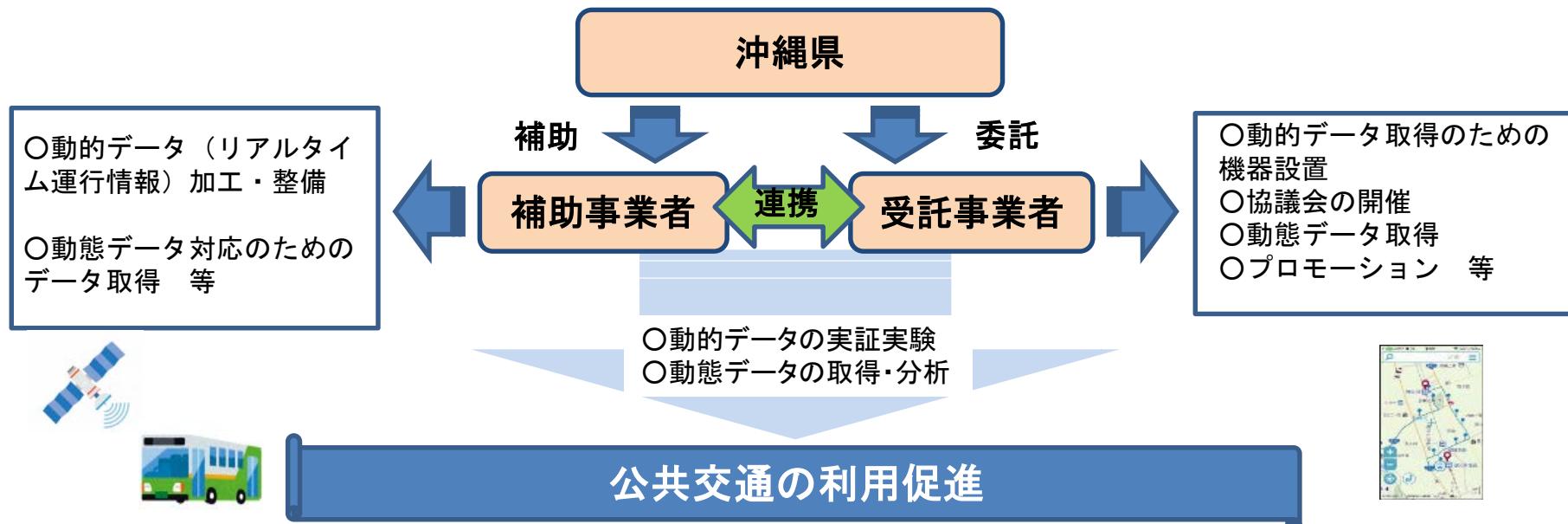
事業概要

本県を訪れる観光客の移動手段ではレンタカーの利用割合が最も高く(約6割)、那覇空港中ノ島や空港周辺の混雑等が観光客の満足度を低下させる要因となっている。一方、県内の重要な公共交通機関である路線バスの利用割合は低く(約1割)なっており、観光客が安心・安全・快適に路線バス等を利用できる環境を提供し、公共交通の利用促進を図ることを目的に当該事業を実施する。

令和2年度の取り組みとして、平成30、31年度に整備した路線バス等の公共交通機関の静的データ(時刻表、バス停位置等)に加え、リアルタイムの運行情報である動的データを整備するための実証実験を実施する。(平成31年3月に国土交通省が動的データの「GTFSリアルタイム」を定めた。)

また、観光客の観光動態データを取得し、観光政策に反映する取り組みを実施する。

事業イメージ図



観光2次交通機能強化事業の取組み内容等について(H30・H31・R2)

<p>H30年度</p> <p>【観光2次交通オープンデータ整備事業】 (主な取組み内容) ①有識者検討委員会の開催(補助事業仕様書の策定等) ②県内の交通事業者等からのデータ収集 ③補助事業者による宮古・八重山地域でのデータの加工、整備及びグーグルマップ等への提供 (成果) ⇒宮古八重山地域の公共交通情報のオープンデータ整備完了 (グーグルマップへの反映等)</p>	
<p>H31年度</p> <p>【観光2次交通オープンデータ整備事業】 (主な取組み内容) ①有識者検討委員会の開催(自走化に向けた検討、コミュニティ形成等に関する検討) ②全57交通事業者との覚書の締結及び自社作成を行う事業者を除く交通事業者のデータ収集及びデータ整備 ③観光情報に係る圏域別勉強会の開催及び観光情報の収集・整理 ④ハッカソンの実施 ⑤バス停ナンバリングの実施(空港発着の一部路線) ⑥公共交通を利用した観光(周遊)モデルコースの作成 (成果) ⇒沖縄全域の公共交通情報等のオープンデータ整備完了 (グーグルマップへの反映等) ⇒全41市町村の観光担当課又は観光協会等の承諾を得て、観光情報を一元的に利活用しやすい統一的な形式に整備し、オープンデータとして公開する取り組みへの着手</p>	<p>【空港～ホテル間等の移動利便性向上事業】 (主な取組み内容) ①那覇空港から那覇市内のホテルや首里城等の観光地への「移動」と「観光」をパッケージとした周遊型観光サービスとして、募集型企画旅行商品を造成し、実証運行を実施。 ・実証期間: R2. 2. 7～3. 29) ※途中、中断期間あり ・乗降ポイント: 空港、那覇市内のホテル、観光地など全14カ所 ・料金: 1日券1,480円、2日券2,480円、3日券3,480円 (デマンドバス乗り放題、世界遺産「玉陵」入場チケット、300円分の電子マネー含む) ②予約・決裁アプリの構築 (成果(予定)) ⇒令和2年度以降の自走化に向けたデータ収集及び自走化の方針の決定</p>
<p>R2年度</p> <p>【観光2次交通オープンデータ整備事業(後継)】 (主な取組み内容) ①有識者検討委員会の開催(動的データ整備に係る助言等) ②路線バスのリアルタイムの運行情報である動的データ(GTFS-RT)の整備に向けた実証実験の実施 (R2年度は、観光路線(空港リムジン、沖縄エアポートシャトル、カリ一観光バス、やんばる急行バス等、約70台)を想定) ③観光客の動態データ(レンタカーの位置情報、バス乗降箇所等)の取得・分析を実施</p>	